

●P22

芝浦工業大学システム理工学部環境システム学科建築士試験指定科目

「指定科目の分類(単位数)」の「二級・木造」欄について

分類「①建築設計 製図」の『実務 3～5 年(3 単位以上)』、「②～④建築計画、建築環境工学又は建築設備」の『実務 3～5 年(2 単位以上)』、「⑤～⑦構造力学、建築一般構造又は建築材料」の『実務 3～5 年(3 単位以上)』を削除

# 学 修 の 手 引

システム理工学部

2016年度  
(平成28年度)

芝浦工業大学

SHIBAURA INSTITUTE OF TECHNOLOGY

# Web 上のシラバス検索システムについて

シラバスとは、大学で開講される授業科目の講義内容や開講期間中の進行計画、成績評価の基準、予習すべき内容などを示したものです。本学では Web 上でシラバスを公開しておりますので、毎年、前期・後期の受講科目を選択する際に冊子「学修の手引」とあわせて必ず閲覧・確認をしてください。

このシラバス検索システムへは自宅または大学のコンピュータ室などインターネットに接続できる環境であれば、以下の URL にアクセスするだけでどこからでも見るすることができます。

## 芝浦工業大学シラバス検索システム

URL ⇒ <http://syllabus.sic.shibaura-it.ac.jp>

芝浦工業大学のホームページからは「在学生の方へ」のページ、または「キャンパスライフ」のページの「PICK UP」欄の「シラバス検索」の箇所をクリックしてアクセスすることができます。

芝浦工業大学 シラバス検索システム

目的の研究科、大学院、学部を選択してください。

大学院研究科   専門職大学院   工 学 部   システム理工学部   デザイン工学部

システム理工学部

総合科目	外国語を除いた総合科目 英語 ドイツ語 / 中国語 / 韓国語 / フランス語 / スペイン語
教職課程	教職
電子情報システム学科	専門 / 共通科目(学部基礎) / 共通科目(システム・情報)
機械制御システム学科	専門 / 共通科目(学部基礎) / 共通科目(システム・情報)
環境システム学科	専門 / 共通科目(学部基礎) / 共通科目(システム・情報)
生命科学科 生命科学コース	専門 / 共通科目(学部基礎) / 共通科目(システム・情報)
生命科学科 医工学コース	専門 / 共通科目(学部基礎) / 共通科目(システム・情報)
数理科学科	専門 / 共通科目(学部基礎) / 共通科目(システム・情報)

信頼済みサイト   100%

# 芝浦学生応援ツール「S\*gsot（ガソット）」

## 【S\*gsot とは…?】

学生生活に必要なさまざまな情報を提供するポータルサイトです。自分自身の時間割や履修履歴、取得単位などが確認できます。

## 【主な機能】

- ★授業時間割 自分自身の時間割を表示
- ★履修履歴 これまでに履修し、評価の確定している科目と現在履修中の科目が一覧表示
- ★取得単位数
  - ・合格確定数で表示…取得した単位数、科目数の一覧と卒業要件に不足している単位数の表示
  - ・履修中科目を含む表示…現在履修中の科目を全て合格と仮定した場合の取得単位数、科目数の表示
- ★お知らせ
  - ・個人へのお知らせ…個人宛て、もしくは所属するグループ宛てに届いたメッセージの表示
  - ・個人への休講・補講情報…あなたが履修している科目の休講・補講情報を一覧で表示
- ★履修登録・事前履修登録 履修登録や履修制限をしている科目の事前登録
- ★成績確認 履修した全科目の成績と、取得単位数を表示
- ★プレイスメントテスト及び TOEIC®IP の結果確認
- ★各種申請
- ★キャスト（芝浦工業大学キャリアステーション CAST）へのログイン

### 『芝浦工業大学キャリアステーション CAST：キャスト』

- ★キャリアサポート課に届いた求人の検索
- ★企業のセミナー情報の閲覧
- ★企業情報の閲覧
- ★卒業生の進路情報・活動報告書の閲覧
- ★キャリアサポート課からのお知らせが届く
- ★進路決定通知・就職活動報告書が web 上から入力

キャストに関する問い合わせ先：キャリアサポート課

- ◆ 豊洲キャンパス・・・教室棟 2F
- ◆ 大宮キャンパス・・・5号館 1F
- ◆ 芝浦キャンパス・・・1F 学生課内

## 【諸注意】

- ★ S\*gsot は学内ネットワークに接続されたパソコンからのみ接続が可能となります。

### 学術情報センターのシステムに自宅から接続するためには…

- Step1) 学内のコンピュータから学術情報センターのホームページにアクセス
  - Step2) 芝浦工業大学リモートアクセスサービス（SRAS）のうち VPN 接続の説明ページを読む
  - Step3) SRAS VPN の接続申請を行い、接続ガイドに従って自宅のパソコンの接続設定をする
- 学術情報センターのマニュアルはわかりやすいので接続カンタン、VPN ではこのほかに電子メールを読んだり、マイボリュームにアクセス可能！！

SRAS に関する問い合わせ先：ネットワークサービス課

- ◆ 豊洲キャンパス・・・研究棟 6F
- ◆ 大宮キャンパス・・・5号館 1F
- ◆ 芝浦キャンパス・・・5F

S\*gsot に関するご意見・お問い合わせは学生課まで

- ◆ 豊洲キャンパス・・・教室棟 2F
- ◆ 大宮キャンパス・・・2号館 1F
- ◆ 芝浦キャンパス・・・1F

## ～Web サイトで最新の情報をチェックしよう～

芝浦工大 在学生向けページ (PC、スマートフォン両対応)

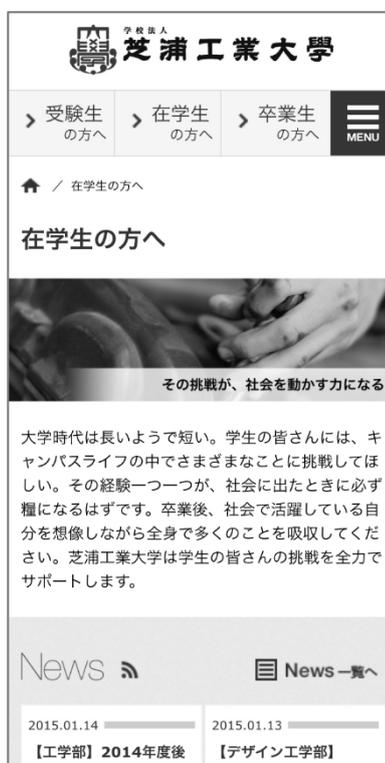
<http://www.shibaura-it.ac.jp/student/index.html>

芝浦工大の Web サイトでは、在学生向けの重要なお知らせやニュースや休講・補講情報など大学生活に関する情報を発信しています。スマートフォンからも閲覧できますのでご活用ください。

時間割、シラバス、学年歴 (年間スケジュール) もこちらから確認することができます。



在学生向けページ (PC 表示)



在学生向けページ (スマートフォン表示)

### 【注意】

一部の情報は掲示板にのみお知らせすることもあります。

Web サイトには掲載されませんので、各キャンパスの掲示板を日頃から確認してください。



# 2016年度後期 行事予定

	日	月	火	水	木	金	土	正 課 系	そ の 他
9月	11	12	13	14	15	16	17	9月中旬 事前履修登録科目 抽選結果発表 9/15～ 後期授業開始 後期履修登録期間	
	18	⑱	20	21	⑳	23	24		
	25	26	27	28	29	30	1		
10月	2	3	4	5	6	7	8	10/10 休日を授業日に振替	
	9	10	11	12	13	14	15		
	16	17	18	19	20	21	22		
	23	24	25	26	27	28	29		
	30	31	1	2	③	4	5	11/1 グローバルday	11/2～11/7 芝浦祭準備、 開催、片づけ ※休講措置あり
11月	6	7	8	9	10	11	12	11/4 創立記念日	
	13	14	15	16	17	18	19	11/4～11/6 芝浦祭	
	20	21	22	㉓	24	25	26	11/19 ポスターセッション	
	27	28	29	30	1	2	3	11/23 休日を授業日に振替	
12月	4	5	6	7	8	9	10	12/23 休日を授業日に振替 12/23 年内授業終了 12/24～1/6 冬季休業	
	11	12	13	14	15	16	17		
	18	19	20	21	22	㉓	24		
	25	26	27	28	29	30	31		
2017年 1月	①	②	3	4	5	6	7	1/7 授業開始	
	8	⑨	10	11	12	13	14	1/14～1/15 大学入試センター試験（大宮校舎）	
	15	16	17	18	19	20	21		
	22	23	24	25	26	27	28		
	29	30	31	1	2	3	4	2月上旬 一般入試（前期）	
2月	5	6	7	8	9	10	⑩	2月下旬 一般入試（後期）	
	12	13	14	15	16	17	18		
	19	20	21	22	23	24	25		
	26	27	28	1	2	3	4		
3月	5	6	7	8	9	10	11	3月上旬 卒業判定結果発表	
	12	13	14	15	16	17	18	3/17 後期・年間休学者復学手続 学位記授与式（東京国際フォーラム）	
	19	㉑	21	22	23	24	25	3月下旬 新入生入学手続書類受付	
	26	27	28	29	30	31			

# 学修の手引

## 目次

1. システム工学部の理念と教育目標	1
1) システム工学部の理念	1
2) システム工学部が求める学生の姿勢	1
3) システム工学部の3つのポリシー	1
システム工学部 学習・教育目標 (アウトカムズ)	3
2. 教育課程	4
1) 単位と授業	4
2) 授業科目の区分	6
3) 科目の配当	7
4) 卒業の要件について	8
5) 4年次への進級条件について	9
3. 科目登録と履修	10
履修登録とは	10
4. 成績評価	14
1) 試験	14
2) 成績	15
3) 資格について	18
5. 教職課程について	24
6-1. 環境教育科目	35
6-2. 英語科目	40
7. 学籍	42
8. 科目配当表・科目配置表	44
科目コード番号について	44
カリキュラムマップ	45
総合科目	50
共通科目 (基礎科目、システム・情報科目)	54
専門科目 (電子情報システム学科)	67
専門科目 (機械制御システム学科)	70
専門科目 (環境システム学科)	72
専門科目 (生命科学科)	76
専門科目 (数理科学科)	82
教職課程科目	84
9. 教員の構成	85
電子情報システム学科	85
機械制御システム学科	87
環境システム学科	88
生命科学科	89
数理科学科	90
非常勤講師	91

この「学修の手引」は2016年度入学者に適用されます。

また、修正・変更に関しては、本学「学修の手引」ホームページ

(URL <http://syllabus.sic.shibaura-it.ac.jp/>) にて随時行います。

# 1. システム理工学部理念と教育目標

## 1) システム理工学部理念

現代社会の問題は、専門分野の枠を越えています。その解決方法は、未来への確かな展望のもと、社会生活を営む現場から様々な要素が関連づけられ形作られています。芝浦工業大学は、解析主導の工学とは異なる、新たな視点のシステム工学部を1991年に開設し、2009年には理学分野を取り込んで学部名称をシステム理工学部としました。

システム理工学部は、学問体系を横断し関連づけるシステム工学の手法により、総合的解決策を追求する「システム思考」、目標達成の機能を作る「システム手法」、問題解決の人・知識・技術を統合する「システムマネジメント」を軸に教育研究を行い、新しい時代の要請に応え、地域と人類社会の発展に寄与する有能な人材の育成をめざしています。

## 2) システム理工学部が求める学生の姿勢

分野横断型教育を特徴とするシステム理工学部は以下のような人物を求めていることを入試要項やホームページで発信しています。したがって、システム理工学部の学生は下記のような姿勢を有していることを前提として学部のカリキュラムを組み立てています。

1. 身の回りにあるさまざまな「もの」や「こと」の仕組みや成り立ちに関心を持ち、それについて深く考え、問題点を解明することに興味を持っていること。
2. 他学科の学生とチームを組んで課題に取り組むなど、システム理工学部における学科の枠を超えた演習科目に興味を持ち、主体的であり積極的に学習することに強い意欲を持っていること。
3. システムを構成する要素のつながりを重視した付加価値のある「ものづくり」や「新たな枠組みづくり」に携わることを通じて社会に貢献しようという意思を持っていること。

## 3) システム理工学部の3つのポリシー

### アドミッションポリシー

分野横断教育を特徴とするシステム理工学部では、以下のような人物の入学を求めています。

1. 身の回りにあるさまざまな「もの」や「こと」の仕組みや成り立ちに関心を持ち、それについて深く考え、問題点を解明することに興味を持っている人。
2. 他学科の学生とチームを組んで課題に取り組むなど、システム理工学部における学科の枠を超えた演習科目に興味を持ち、主体的であり積極的に学習することに強い意欲を持っている人。
3. システムを構成する要素のつながりを重視した付加価値のある「ものづくり」や「新たな枠組みづくり」に携わることを通じて社会に貢献する意志を持っている人。

### カリキュラムポリシー

現代社会の問題は、専門分野の枠を越えています。その解決方法は、未来への確かな展望のもと、社会生活を営む現場から様々な要素が関連づけられ形作られています。システム理工学部は、学問体

系を横断し関連づけるシステム工学の手法により、総合的解決策を追及する「システム思考」、目的達成の機能を作る「システム手法」、問題解決の人・知識・技術を統合する「システムマネジメント」を軸にカリキュラムを編成し、新しい時代の要請に応え、地域と人類社会の発展に寄与する有能な人材の育成をめざしています。

具体的には次のような科目群でカリキュラムを編成しています。

1. 幅広い教養を身につけ、個々の科学技術を総合して問題の解決に取り組むシステム思考を養うための学部総合科目。
2. エンジニアとしての基礎を固めつつ、社会の問題解決に必要なシステム工学の理論と手法を修得するための学部共通科目。
3. 専門的知識を深めるための学科専門科目。
4. 各自が設定したテーマを解明し総合的解決策を導き出す能力を養うための総合研究。

### ディプロマポリシー

システム理工学部では、以下能力を身につけた人に学士の学位を授与します。

1. 学部総合科目の学修により、幅広い教養を身につけるとともに、個々の科学技術を総合して問題の解決に取り組むシステム思考を修得していること。
2. 学部共通科目の学修により、エンジニアとしての基礎を固めつつ、社会の問題解決に必要なシステム工学の理論と手法を修得していること。
3. 学科専門科目の学修により専門的知識と体験を深め、さらに総合研究への取り組みを通じて各自が設定したテーマを解明し総合的解決策を導き出す能力を修得していること。
4. 社会に貢献するエンジニアとしての技術倫理観を修得していること。

以 上

## システム理工学部

### 学習・教育目標（アウトカムズ）

- A 地球の視点から多面的に物事を考えるシステム思考とその素養。（広い視野）
- （A-1）社会及び地球環境について理解し、解決しなければならない問題を発見できる。
  - （A-2）人間、文化、価値観等についての多様性を理解し、さまざまな立場から物事を考え、行動できる。
- B 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、ならびに技術者及び科学者が社会に対して負っている責任を理解し、社会に貢献する職業人として倫理観に基づき行動できる。（職業倫理）
- C 数学、自然科学および情報技術に関する知識とそれらに応用できる能力。（専門基礎）
- （C-1）数学、自然科学に関する基礎を理解し、利用することができる。
  - （C-2）情報技術に関する基礎を理解し、利用することができる。
- D 現代社会の問題を創造性を発揮して探求し、目的達成に向けて関連する科学技術や知識を統合し、総合的解決策を導き出す能力。（システムズ・エンジニアリング）
- （D-1）学問体系を横断し関連づけるシステム工学のプロセスを理解し、総合的な解決策を導出・評価できる。（システム思考）
  - （D-2）社会的かつ分野横断の問題をモデル化し、システム工学の技術・ツールを適用し、制約条件下で問題を解決できる。（システム手法）
  - （D-3）各種制約下でニーズに合致するシステム、サービス、プロセスをデザインできる。
- E 問題解決のために必要な人・知識・技術を統合し、マネジメントできる。（システムマネジメント）
- F 学際的チームで活動できる。（チーム活動能力）
- G 理工学の専門知識とそれらを問題解決に応用できる能力。（専門知識とそれを用いた問題解決）
- （G-1）機械制御システム、電子情報システム、環境システム、生命科学、数理科学のうち1つの分野の専門知識・技術を修得し、それを問題解決に応用できる。
  - （G-2）上記の分野以外から1分野以上の専門概要知識を理解し、その社会、技術への影響を判断できる。
  - （G-3）実験や研究の進め方を修得するとともに、問題を正確に把握し、理工学的に考察できる。
- H 論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力および国際的に通用するコミュニケーション基礎能力。（コミュニケーション能力）
- （H-1）技術的文書の作成、口頭発表、討論等のコミュニケーションができる。
  - （H-2）英語の技術文書を理解し、作成し、海外の技術者とコミュニケーションができる。
- I 自主的、継続的に学習できる。（生涯学習能力）

## 2. 教育課程

### 1) 単位と授業

#### (1) 単位

学修すべき教育内容を量的に区切ったものを「単位」と呼んでいます。

授業科目にはそれぞれ固有の「単位数」が定められており、1単位は教室内の講義と教室外の自習をあわせて45時間を基準としています。各授業科目の単位は次の基準によります。

- ① 講義については、毎週1時限15週の講義をもって2単位とします。
- ② 演習、実験、実習、体育実技等の授業については、毎週1時限15週の演習をもって1単位とします。但し一部の実験科目は3時限15週もしくは4時限15週の実験をもって2単位とします。
- ③ 総合研究については、4年次前後期を通じた研究活動をもって6単位とします。

#### (2) 授業

- ① 授業時間の区分は次の通りである。但し、補講および集中講義の実施時はこれと異なる場合があるので、掲示等を確認してください。

第1時限	9:00～10:30
第2時限	10:40～12:10
第3時限	13:00～14:30
第4時限	14:40～16:10
第5時限	16:20～17:50
第6時限	18:00～19:30
第7時限	19:40～21:10

※授業に出席するときは、必ず学生証を教室の無線端末にかざして出席登録をしてください。

出席認証開始時間は第1時限と第3時限は授業開始30分前から、それ以外の時限は授業開始10分前からです。

- ② 授業時間割

授業時間割は前・後期印刷したものを年1回学年始めに配付します。

履修登録時には、「学修の手引」を参考にして、授業時間割をもとに履修科目を決定することになります。また、授業時間割に変更があった場合は掲示板の授業時間割表に朱記します。

- ③ 掲示

学修上一般に周知を要する事項は、すべて掲示板（5号館1階）に発表するので登下校時には必ず掲示板を見る習慣をつけることが大切です。

学生個人に対する事項も掲示または郵送で通知します。また、一旦掲示した事項については、周知徹底したものとして取り扱います。

④ 休講

担当教員の病気や学会など、その他の理由により予定していた授業ができなくなる場合があります。このような場合、担当教員の判断で休講になることがあります。

休講の情報は、その都度、掲示にて発表します。

⑤ 補講

休講等に対する措置として授業期間内の空いた時限に行う授業です。

補講を実施する場合は掲示板に発表します。

⑥ ホームページ (URL <http://www.shibaura-it.ac.jp/current/>)

掲示板の休講欄に掲示する「休講情報」や「お知らせ情報」「Webシラバス」などを、Webサイトにて開示しています。これらの情報は掲示板の補助的なものであるため、詳細ならびに変更事項などの正式な情報については必ず掲示板にて確認してください。

⑦ 学生課窓口取扱い時間

・大宮キャンパス

曜日	通常	授業期間以外	夏季期間
月～金	9:00～18:30	9:00～17:00	10:00～16:00
土	9:00～17:00	9:00～17:00	休業

⑧ その他

電話による個人情報に関する問い合わせや質問は受付けておりません。大学のスケジュール等は、大学ホームページや掲示板で確認し、不明点などは学生課窓口で質問してください。

## 2) 授業科目の区分

システム理工学部の授業科目は、総合科目、共通科目、専門科目、教職科目に大別されます。

授業科目の区分には必修科目・選択科目・自由科目の3種類があります。

必修科目とは卒業までに必ず修得しなければならない科目です。選択科目は各自の関心や必要に応じて自主的に修得することができる科目です。ただし、卒業までに取得すべき最低単位数が定められています。自由科目は各自の関心や必要に応じて自主的に修得する科目ですが、卒業要件単位数には含まれません。

### (1) 総合科目

「総合科目」は、専攻している学問分野に限らず、幅広い教養を身につけてもらうためのものであり、「共通科目」、「専門科目」と互いに補うものと位置づけられます。

外国語科目は英語と英語以外の科目を取得しなければなりません。

### (2) 共通科目

#### ●基礎科目

システム理工学部の学生に必要な基礎的科目として、数学、物理学、化学、生物学の授業科目が含まれています。

#### ●システム・情報科目

システム理工学部の特色である、システム工学に必要な技術を学ぶために設けられた科目です。

### (3) 専門科目

この科目は、各学科の性格を特色づけるものであり、所属学科配当の科目を配当年次にしたがって履修しなければなりません。

### (4) 教職科目

この科目は、教育職員免許状の取得の為に、教職課程受講者のみが履修することができます。取得しようとする免許状科目により、他学科の専門科目を教職科目として履修する必要があります。この場合を含め、教職科目は原則として自由科目（卒業要件外）となります。

### 3) 科目の配当

科目配当表は2016年度入学者の各年次における開講科目が年次、学期にどのように配当されているかを示したものです。この配当表と卒業資格要件等を考え合わせて、履修計画を立てる必要があります。実際の時間割は毎年度の始めに発表されますが、この配当表に基づいて作成されるので、必修科目はもちろん、選択科目でも配当された年次、学期に履修しないと単位を取得できなくなる場合がありますので注意が必要です。

#### (1) 科目番号

各授業科目には、系統的に編成された科目番号（科目コード）がつけられています。

共通科目は各学科で異なる科目番号がつけられているので、各種書類で注意してください。

#### (2) 単位数

各授業科目には定められた単位数（1、2又は6）が示されています。

#### (3) 必修・選択科目

各授業科目の配当箇所には◎、△等の記号が記入されていますが、◎は必修、△は選択科目を表しています。生命科学科においては、生命科学コースと生命医工学コースの2コースが設けられており、コース別必修科目があります。★は生命科学コースの必修科目、◆は生命医工学コースの必修科目、○は各コースのコース別選択必修科目を表しています。

#### (4) 配当年次・学期

◎、△等の記号がつけられている箇所が、その授業科目の配当年次及び配当学期です。その記号が複数の箇所に記入されている場合は、年度によって開講時期が異なりますので各年度の時間割で確認してください。各学科の「総合研究」及び一部の科目については履修期間が1年のものがあり、単位認定は通年で行います。

#### (5) 週コマ数

各授業科目について1週に行われる授業の時限数（1時限＝90分）を示します。



## 5) 4年次への進級条件について

4年次に「専門科目」の必修科目である総合研究に着手するためには、3年次終了時までの単位取得状況が4年次への進級条件を満たしていなければなりません。この条件は学科ごとに定められており、所属学科の条件を満たすように単位を取得しなければなりません。

なお、4年次への進級条件を満たさない場合は、3年次に留年となり、総合研究には着手できません。

### 4年次への進級条件

学 科	4 年 次 へ の 進 級 条 件
電子情報システム学科	3年次までの必修科目である演習の単位を取得し、「情報実験Ⅰ」と「情報実験Ⅱ」あるいは「電子情報実験Ⅰ」と「電子情報実験Ⅱ」のいずれか1組4単位を取得していること。また、総合研究を除く必修科目の未修得科目が2科目以下で、かつ卒業要件を満足する為に総合研究着手後に取得すべき単位数の合計が20単位以下であること。 なお、「国際電子情報システム実験Ⅰ」の単位取得により、「情報実験Ⅰ」または「電子情報実験Ⅰ」の単位取得に、「国際電子情報システム実験Ⅱ」の単位取得により、「情報実験Ⅱ」または「電子情報実験Ⅱ」の単位取得に、それぞれ代えることができる。
機械制御システム学科	3年次までの必修科目である実験・演習・実習・製図を取得し、総合研究を除く必修科目の未修得科目が2科目以下で、かつ卒業要件を満足する為に総合研究着手後に取得すべき単位数の合計が20単位以下であること。
環境システム学科	3年次までの必修科目である実験・演習の単位を取得し、総合研究を除く必修科目の未修得科目が2科目以下で、かつ卒業要件を満足する為に総合研究着手後に取得すべき単位数の合計が20単位以下であること。
生命科学科 (生命科学コース)	総合研究を除く必修科目と生命科学コース別必修科目の合計18科目のうち未取得科目が2科目以下であること、ただし実験関連科目(生命科学基礎実験・有機化学実験・生命科学実験Ⅰ・生命科学実験Ⅱ・生命科学実験Ⅲ・生命科学実験講義)は全て単位を取得していること。 なおかつ生命科学コース別選択必修科目13科目のうち取得科目が8科目以上であること。また卒業要件を満足するために総合研究着手後に取得すべき単位数の合計が20単位以下であること。
生命科学科 (生命医工学コース)	総合研究を除く必修科目と生命医工学コース別必修科目の合計18科目のうち未取得科目が2科目以下であること、ただし機械設計演習・医療福祉基礎実験・医療福祉設計演習・医療福祉応用実験Ⅰ・医療福祉応用実験Ⅱ・生命医工学セミナーについては全て単位を取得していること。なおかつ生命医工学コース別選択必修科目13科目のうち取得科目が8科目以上であること。また卒業要件を満足するために総合研究着手後に取得すべき単位数の合計が20単位以下であること。
数理科学科	3年次までの必修科目である実験・演習の単位を取得し、総合研究を除く必修科目の未修得科目が2科目以下で、かつ卒業要件を満足する為に総合研究着手後に取得すべき単位数の合計が20単位以下であること。

### 3. 科目登録と履修

#### 履修登録とは

履修しようとする授業科目は、あらかじめ登録しなければなりません。

履修登録は受講・受験の要件として、前期および後期の始めに行う手続きです。学生各自にとって必要不可欠な手続きであり、この手続きを完了した科目のみ、その各期に受講・受験することができます。

したがって、登録のない授業科目の単位認定は行われません。

なお、原則として履修登録を行うにあたり、その前の期の学費が全額納入されていない場合は、履修登録することができません。

#### (1) 履修登録前の準備

- ① 前期初めの指定された日時に履修登録手続きについてのガイダンスを行います。このガイダンスでは、履修登録手続きにあたり、各領域、学年ごとに注意すべき重要事項の説明がなされ、さらに必要な書類が配付されます。履修登録手続きを間違いなく進めるためにも、このガイダンスへの出席が必要不可欠です。よって、このガイダンスには必ず出席してください。
- ② 「学修の手引」(本誌)や「授業時間割表」等を参照し、さらに上記のガイダンスの内容を踏まえ、各自の学修目標や時間の余裕なども考慮して履修計画を立ててください。

#### (2) 履修上の制約

- ① 在籍する学年より上級学年に担当されている授業科目の履修は認められません。
- ② 各学科、学年における必修科目は、入学・進級した年度に必ず履修してください。
- ③ すでに履修し、単位認定を受けた科目の履修は認められません。
- ④ 十分な学修時間を確保し授業内容を理解するため、履修登録できる単位数には原則として以下の上限を設けています。
  - ・電子情報システム学科、機械制御システム学科…半期30単位未満、通年50単位未満
  - ・環境システム学科、生命科学科、数理科学科…半期30単位以下、通年50単位未満なお、一定基準以上の成績を修めた学生については上限を超えた履修登録も可能です。履修単位上限の詳細については各期の履修登録を行う前にガイダンスや掲示板などで必ず確認してください。

#### (3) 事前履修登録の手続き

履修希望者が教室定員を超える可能性がある場合等に、履修人数に上限を設ける科目があります。これらの科目については、授業開始前に事前に登録手続きを実施し、履修許可者を決定します。この事前の登録は、Webシステム「S\*gsot (ガソット)」(巻頭口絵参照)で行います。対象となる科目や受付期間は、掲示板等で公表するので確認してください。

#### (4) 授業開始後に行う履修登録手続き

(3) で履修登録をしなかった科目については、その学期の授業開始後に履修登録手続きを行います。日程等詳細は掲示により確認してください。登録はWebシステム「S\*gsot (ガソット)」(巻頭口絵参照)で行います。ただし、一部の履修登録手続きは書類提出による場合があるので掲示等にて確認してください。

#### (5) 履修登録についての一般的留意事項

- ① 履修登録手続きが終了すると、各自の履修登録科目をWebシステム「S\*gsot」で公開しますので、所定の期間内に不備がないか必ず確認してください。この確認を怠り、所定の期間内に修正手続きを行わない場合は履修が無効となるので特に注意してください。
- ② 履修登録期間後、各授業担当教員に履修者名簿が配付され、この名簿によって授業および試験が行われます。
- ③ 所定の期間後の履修登録科目の追加・取消しは原則として認めません。
- ④ 事前の登録を実施しなかった科目であっても、初回授業時の履修希望者が相当数あった場合には、履修人数制限を実施することがあります。

#### (6) 他学部・他学科開講科目の履修を希望する場合

他学部・他学科で開講される科目の履修を希望する場合は、各期の始めの指定の期間に学生課窓口にて所定の書類を提出し、登録申請を行います。Webシステム「S\*gsot (ガソット)」では登録できないため注意してください。

##### 【制度の趣旨と対象科目】

システム理工学部の他学科科目及び工学部・デザイン工学部の科目についても、学外単位等認定制度を準用して履修ならびに単位取得することができます。但し、この他学部・他学科履修制度の目的は幅広い科目の聴講を目的とするもので、卒業要件においていずれの科目系列・科目区分で単位認定されるかは、システム理工学部の学内審査機関が決定します。特にシステム理工学部共通科目および在籍学科専門科目と類似する科目については、学内の審査機関の判断により自由科目として卒業要件に算入されない場合があります。また、履修許可は開講学部・学科の学生が優先され、履修希望者が多数に上る科目は履修許可を得られない場合がありますので、履修計画時には注意してください。

##### 【申請の手順】

- ① 申請条件は所属学科によって異なりますので、申請前に必ず各学科の掲示板で、申請条件を確認してください。
- ② 所属学科の申請条件に合致する場合に限り各学期初めの指定期間に、学生課にて『他学部・他学科開設科目履修申請書』を受け取り、これに必要事項を記入し、授業担当教員の許可を得て提出してください。

##### 【単位の取り扱い等】

- ① 取得単位の取り扱いや卒業要件への算入等の審査は学内の審査機関において行います。
- ② 履修登録した科目の取り消しは、一切認められません。

- ③ 他学部履修を利用して取得できる単位数は30単位までですが、所属学科により申請する単位数が30単位以下場合がありますので、掲示で申請条件を確認してください。ただし、学内の審査機関において自由科目と決定した科目は、この制限に含まれません。

(7) 学外単位等認定制度について

① 学外単位等認定制度とは

本学部の学生が本学以外の「他大学等の教育機関」で単位を取得した場合、それが教育上必要と認められた時には、本学の単位として認定される制度を「学外単位等認定制度」といいます。

注) : 「他大学等の教育機関」とは、大学・短期大学・高等専門学校の専攻科、その他文部科学大臣が認める教育施設をいいます。

学外単位取得には、以下の3種類があります。

1. 学生が他大学等の教育機関において各自で計画し、単位を取得する場合。(申請単位認定)
2. システム理工学部と単位互換協定が結ばれている他大学等教育機関において、特定科目の履修が認められた場合。(協定単位認定)

システム理工学部が2014年度において単位互換協定を結んでいる大学は次の通りです。

1) 「東京理工系4大学による学術と教育の交流に関する協定」に基づく工学院大学、東京電機大学、東京都市大学

2) 「交流連携事業に関する基本協定」に基づく明治学院大学

協定大学での科目履修を希望する学生は、授業期間開始前に学生課に相談してください。

詳細は掲示で確認してください。

3. 本学と留学の協定を結んでいる教育機関等へ留学した場合。(協定留学単位認定)

「協定留学単位認定」に関する協定を結んでいる教育機関は、カリフォルニア大学アーバイン校(米国)、グアム大学(UOG)(米国)、キングモンクット工科大学トンブリ校(KMUTT)(タイ)、マレーシア工科大学・マレーシア日本工学技術院(MJIIT)等です。詳細はガイダンス等に参加し確認してください。

また、単位認定は短期留学を行った学期に行われない場合がありますので注意してください。

4. 本学と交換留学の協定を結んでいる外国の大学へ留学した場合。(単位認定付交換留学)

「交換留学単位認定」に関する協定を結んでいる教育機関は、キングモンクット工科大学トンブリ校(KMUTT)、マレーシア工科大学(マレーシア日本国際工科院、MJIIT)です。留学方法や留学先で受講する授業、帰国後の単位認定等の詳細については、学科の教員へ確認してください。

② 学外単位等認定制度を利用した認定単位数

学外単位等認定制度を利用して取得できる単位数は、本学入学前および在学中に他大学等の教育機関で取得した単位(本学併設校出身者が先取り授業で取得した単位を含みます)、60単位までです。ただし、学内審査機関において自由科目と決定した科目はこの制限に含まれません。

ただし、学士入学、編入学、転部・転科入学をした学生については、この制度は適用されません。なお、学外単位を取得し認定を受けるためには、定められた期間に学生課にて、所定の手続きをしてください。

[各種英語検定試験の単位認定について]

得点結果を証明する書類を定められた期間内に学生課に提出することにより、得点に応じて所定の科目名で単位が認定されます。詳細は「学外英語検定Ⅰ」「学外英語検定Ⅱ」のシラバスを確認してください。

「学外英語検定Ⅰ」(2単位)・・・英検：準1級

TOEFL-CBT：190 TOEFL-PBT：520

TOEFL-iBT：68 TOEIC：700

「学外英語検定Ⅱ」(2単位)・・・英検：1級

TOEFL-CBT：270 TOEFL-PBT：637

TOEFL-iBT：110 TOEIC：900

## 4. 成績評価

成績評価は小テスト、中間テスト、期末試験、レポート、発表などの評価方法を用いて総合的に判定されます。各科目の成績評価の方法はシラバス（巻頭口絵参照）に記載されていますので、よく確認してください。

### 1) 試験

試験は原則としてシラバスに基づき実施されますが、学修の到達度を評価するという側面を持つため、各期の最終授業日に行われることが多いです。この最終授業日に実施される試験を一般的に期末試験と呼んでいます。以下に期末試験の実施方法等について記載します。

#### (1) 概要

- ① 試験は履修者全員を対象として実施されます。
- ② 試験を受験するためには次の条件を満たしていることが必要です。
  - ・必修、選択科目ともに当該科目を履修登録していること。
- ③ 授業科目によっては、通常の授業時とは異なる教室や曜日・時限で試験を実施する場合がありますので、掲示板等で確認してください。

#### (2) 試験受験上の心得

##### ① 座席の指定

試験科目により座席を指定する場合があります。試験開始時刻までに、所定の試験教室の「座席表」で指定された箇所に着席して、受験してください。

##### ② 学生証の提示

試験教室では、常に学生証を机上通路側の見やすい場所においてください。万一、学生証を当日忘れた場合は、仮身分証明書の発行を学生課で受けてください。仮身分証明書は当日の試験科目に限り有効とし、終了後は返却してください。学生証を紛失した場合は学生課で再発行を受けてください。

##### ③ 遅刻

受験者の遅刻は、当該科目の試験所要時間の2分の1までは認めています。

##### ④ 試験監督者の指示

試験教室では、すべて試験監督者の指示に従ってください。指示に従わない者には退室を命ずることもあります。また、監督者の許可があった場合を除き、学生相互間の筆記用具その他の貸借は一切禁止します。入室後、学生証、筆記用具、指定のあった教科書・資料などの他は、机の上および中に置かずかばんの中に入れてください。これらが守られないときには、「不正行為」とみなされることがあります。

### (3) 不正行為

各科目の成績評価において不正行為を行った者には、その期に履修登録した全ての科目の単位認定を行わない、学内に不正行為の公表を行うなどの厳重な処分を科します。

#### ・試験（小テスト、中間試験、期末試験）

他人の答案を盗み見る行為はもちろんのこと、次に挙げる行為も全て不正行為とみなされますので、絶対に行わないようにしてください。

- ① 不正行為を行う目的で作成した資料を使用した場合。
- ② 参照を許可されていないノート・教科書・参考書などを見た場合。
- ③ 机上、壁面あるいは電子機器等に試験に利益となる事項を記載し、かつこれを使用した場合。及び他人が作成した上記の記録等を自己の答案作成の用に供した場合。
- ④ ①～③の資料等を交換又は他人からの貸与等を受け、答案を作成した場合。
- ⑤ 答案の交換（複数で答案を作成した場合を含む）あるいはすり替え、盗用を行った場合。
- ⑥ 他人の答案又は他人の①～③の資料等を盗み見て、答案を作成した場合。
- ⑦ 自己の代わりに他人が答案を作成した場合。
- ⑧ 他人の答案を作成した場合。
- ⑨ 解答用紙を持ち帰ろうとした、又は持ち帰った場合。
- ⑩ その他、試験の目的に反する行為をした場合。

#### ・論文、レポート、作品等の提出物

- ① 他人によって作成された論文、レポート、作品等を提出した場合。
- ② 文献、インターネット上の情報を無断で盗用したり、引用元を明らかにせずに文章の多くを無断使用した場合。
- ③ その他、提出物作成の目的に反する行為を行った場合。

### (4) 追試験

期末試験において、病気その他やむを得ない事情により受験できなかった場合は、診断書などの証明書を添えて、追試験申請書を提出することができます。

提出期限は、その科目の試験日を含め4日以内（窓口休業日を除く）とします。授業担当教員がその申請を認めた場合は、期末試験終了後、原則として1ヵ月以内に追試験を実施します。

## 2) 成績

### (1) 成績の発表

成績は成績原簿に記載されるとともに、個々の学生にはWebシステム「S\*gsot (ガソット)」で発表します。ただし、成績未報告の科目については、成績通知書に「#」で表示され、成績評価については記載されませんので、成績は各授業担当教員もしくは学生課に問い合わせてください。

## (2) 成績評定基準

### ① 合格

S…100点～90点

A…89点～80点

B…79点～70点

C…69点～60点

N…認定（主に下記の条件において認定された科目の表示）

- ・他大学等教育機関で修得し、入学時もしくは在学中に認定された科目

### ② 不合格

D…59点～0点

### ③ その他

G…履修中

#…成績未報告（当該科目の成績は、次項（3）に従い問い合わせてください。）

## (3) 成績の確認

成績に関する質問は、学生課で受け付けます。

成績問い合わせをする場合は『成績通知書』を印刷の上、学生課または担当教員まで申し出てください。申し出がない場合は確認済として処理します。確認期間以外の質問は原則として受け付けません（成績未報告科目を除く）。

## (4) 不合格科目の取り扱い

成績は『学籍簿』に記載され、大学に永久保存されます。

従って、不合格科目は再履修して合格点を取らない限り、不合格（D）のまま『学籍簿』及び『成績通知書』に記載されることとなります。

※4年生になると、就職活動や大学院受験等で『成績証明書』が必要になりますが、この『成績証明書』には合格科目（S、A、B、C、N）のみ記載し、不合格科目は記載されません。

なお、SならびにAは「優」、Bは「良」、Cは「可」、Nは「認」と記載します。

## (5) GPA

システム理工学部では、2012年度からGPA (Grade Point Average) を導入しています。GPAとは、学修の質を計るための成績評価方法で、学生一人ひとりの成績と履修単位数に基づき平均値を下記の算出方法で表すものです。具体的には、成績通知書に学期ごとに算出したGPAと1年次から累積して算出したGPAを履修単位数と併せて記載します。GPAは、次期の履修登録の単位数上限の基準など各種指標として使用することがあります。各学科における履修登録単位制限にも関わってきますので、自らが履修に対して責任を持ち、履修した科目に対して可能な限りよい成績を修められるよう努力してください。

### 【GPA算出方法】

$$\text{GPA} = \frac{(\text{履修した各科目の成績点}) \times (\text{その科目の単位数}) \text{の総和}}{\text{履修した単位数の総和}}$$

で定義されます。ただし「成績点」は次の表の通りです：

成績	素点	成績点
S	90 点以上 100 点以下	4
A	80 点以上 89 点以下	3
B	70 点以上 79 点以下	2
C	60 点以上 69 点以下	1
D	59 点以下	0

---

※上記の「成績点」をGradeといいます。Gradeに単位数を乗じたものをGrade Pointといいます。GPAはGrade Point Averageの略称で、Grade Pointの平均値を表します。







(環境システム学科対象)

### 建築士試験の受験資格要件（学歴要件：指定科目）に関して

＜一級・二級・木造＞建築士試験の受験に当たっては、これまでは環境システム学科の課程を修めて卒業した後、建築に関して＜所定の年数＞年以上の実務経験を有する者は、受験可能でしたが、建築士法の改正にともない、平成21年度入学者からは国土交通大臣の指定する建築に関する科目（以下「指定科目」という。）を修めて卒業した者であって、その卒業後建築に関する実務として国土交通省令で定めるもの（以下「建築実務」という。）の経験を＜所定の年数＞年以上有する者に変更されました。

したがって、各自の履修した「指定科目」の修得単位数によって必要となる建築実務の経験年数が異なり、その修得単位によっては受験できない場合もあります。

芝浦工業大学システム理工学部環境システム学科の場合は、＜必修科目／所定の科目＞を所定の単位数以上修得することにより、建築実務の経験が＜所定の年数＞年以上あれば＜一級／二級・木造＞建築士試験を受験することが可能となります。

なお、「指定科目」「建築実務」「＜所定の年数＞」については、次項を参照してください。



## 環境再生医（初級）の認定要件について

### ●環境再生医とは

環境再生医とは「環境を再生するための知識と技術を持っていることを証明する資格」です。ただし、自然環境とは対象となるものが広いため、それぞれの分野の専門家が集まった、自然環境の再生と保全に関する専門家集団を目指している制度です。

### ●環境再生医の特徴

自然という外部環境だけでなく、『人間の内面や文化を含む総合的な環境の再生』に力を入れています。そのため理系・文系を問わず、いろいろな分野・立場の方が取得しています。

### ●認定校制度

環境再生医になるには、環境関連の実務経験が必要です（初級2年、中級5年、上級10年以上）。大学や専門学校などの環境系講義や実習を履修された場合は「実務経験2年に相当する」とみなし、認定校として学校に初級認定を委嘱しています。芝浦工業大学システム理工学部環境システム学科は、認定機関の自然環境復元協会から「認定校」の指定を受けているため、指定された科目の単位を修得すると環境再生医初級資格の取得が可能です。資格は在学中に取得できるので就職活動に活かすことも可能です。

### ●環境再生医の活躍先

当資格は平成15年に制定され、2014年現在では全国で約4,000人の方々が環境再生医として、コンサルタント、環境団体、教育、行政、一般企業のCSR（社会貢献）部門、農林漁業・建設・土木・造園・自然をテーマにした企業など、さまざまな分野で活躍しています。

### ●資格取得の要件

資格取得のためには、以下の表に掲げる必要項目ごとの2単位以上の履修と、合計20単位以上の取得が必要です。また、環境再生医ガイダンスの受講と認定料の納付が必要です。

必要項目	対応科目（履修年次） ※1単位、他はすべて2単位
①地球環境問題 自然環境復元概論	環境科学Ⅰ（1）、エコライフと社会システム（2）、人間と環境Ⅰ（1）
②自然環境の保全と再生	人間と環境Ⅱ（2）、景観・環境デザイン（3）
③資源循環 循環型社会の形成	環境科学Ⅱ（1）、都市基盤施設計画（3）
④環境教育 市民活動	環境調査体験（2）、Environmental Field SurveyⅠ※（3）、Environmental Field SurveyⅡ※（3）、地域環境政策Ⅱ（3）
⑤環境行政と関係法令	地域環境政策Ⅰ（3）、環境法制（3）、地域環境政策演習（3）

## 5. 教職課程について

教職課程は「教育職員免許法」に基づき教育職員免許状（以下「教員免許」という）取得のために設置されています。教職課程の主務官庁は文部科学省であり、免許状授与権者は都道府県教育委員会です。教員免許状取得希望者は、本学学則上の卒業要件を満たすことを前提に教職課程の単位を取得しなければなりません。

システム理工学部各学科で取得できる教員免許状の種類および教科は〔表－1〕のとおりとなります。

教員免許状の取得は、3年次以降では極めて難しく、入学年次から計画的に履修することが必要です。卒業後でも教員免許状取得のために教職課程を受講することができますが、この場合、科目等履修生としての履修料等を負担しなければなりません。

### (1) システム理工学部各学科で取得できる免許状の種類と教科

〔表－1〕

学部名	学 科 名	免 許 状 の 種 類	免許状教科
システム理工学部	電子情報システム学科	中学校教諭 一種免許状	数学
		高等学校教諭 一種免許状	数学 情報 工業
	機械制御システム学科	中学校教諭 一種免許状	数学
		高等学校教諭 一種免許状	数学 工業
	環境システム学科	中学校教諭 一種免許状	数学
		高等学校教諭 一種免許状	数学 工業
	生命科学科	中学校教諭 一種免許状	数学 理科
		高等学校教諭 一種免許状	数学 理科 工業
			中学校教諭 一種免許状
	数理科学科	中学校教諭 一種免許状	数学
		高等学校教諭 一種免許状	数学 情報

### (2) 教職課程の履修

教職課程の科目は、大別して「教職に関する科目」と「教科に関する科目」があります。

「教職に関する科目」は、主として月～金曜日5・6限目および土曜日1～5限目に開講されています。4年次に教育実習を行う為には、教育実習ならびに教職実践演習以外の教職に関する科目を3年次までに履修して、単位取得しなければなりません。

「教科に関する科目」も同様に、所属学科と取得希望教科で定められている科目を3年次までに履修して、単位取得しなければなりません。

履修登録手続きは、学部共通科目・専門科目と同様にWebシステム「S\*gsot」で行いますが、事前に教職課程受講料（10,000円）を納めていなければなりません。

(3) 教員免許状取得のための必要単位数

教員免許状取得のための単位数として、下記〔表－２〕以外に共通の科目から指定されている科目〔表－５、計８単位〕が必要となります。

〔表－２〕

免許状の種類 所要資格		一種免許状	
		中学校教諭	高等学校教諭
		数学 理科	数学 理科 情報 工業
基礎資格		学士の学位を有すること	
教科別 必要 単 位 数	教 職 に 関 す る 科 目	35単位	27単位
	教 科 に 関 す る 科 目	20単位	
	教科又は教職に関する科目	8単位	12単位
	教職・教科に関する科目 以外の必要科目	※8単位	
	合計単位	71単位	67単位

※P27の〔表－５〕参照

教職に関する科目、教科に関する科目のそれぞれは、〔表－３〕、〔表－４〕の所定単位数を取得しなければなりません。

<注１> 「工業」の免許状は、臨時措置（教育職員免許法附則第11項）により取得することもできます。〔表－４〕に続く説明を確認してください。



(イ) 教科に関する科目の単位数

[表-4]

教科	教科に関する科目 施行規則の科目名	(一種免許状) 取得単位数	
		中学校教諭	高等学校教諭
数 学	代 数 幾 何 解 析 「確率論、統計学」 コ ン ピ ュ ー タ	} 計20単位	} 計20単位
	計		
理 科	物 理 学 化 学 生 物 学 地 理 学 実 験 (コンピュータ活用を含む。) 化 学 実 験 (コンピュータ活用を含む。) 生 物 学 実 験 (コンピュータ活用を含む。) 地 学 実 験 (コンピュータ活用を含む。)	} 計20単位	} 計20単位
	計		
工 業	職 業 指 導 関 係 科 目	/	2 単 位 18 単 位
	計		20単位以上
情 報	情報社会及び情報倫理 コンピュータ及び情報処理 (実習を含む) 情報 シ ス テ ム (実習を含む) 情報通信ネットワーク (実習を含む) マルチメディア表現及び技術 (実習を含む) 情 報 と 職 業	/	} 計20単位
	計		

※「工業」の免許状を取得する場合は、[表-4]の「教科に関する科目」20単位ならびに[表-3]の「教職に関する科目」27単位および「教科又は教職に関する科目」12単位の合計59単位の取得が必要になります。

しかし、臨時措置（教育職員免許法附則第11項）により取得することもできます。

その臨時措置によれば、「教職に関する科目」（27単位）は「教科（工業）に関する科目」の単位の同数と代替可能となります。つまり、「教職に関する科目」と「教科（工業）に関する科目」を合計59単位取得すればよいこととなります。ただし、この59単位の中には「職業指導」（2単位）が含まれていなければなりません。

臨時措置による「工業」免許状のみを取得希望の場合でも、できる限り「教職に関する科目」の履修が望ましく、特に「工業科指導法1・2」を履修することを薦めます。

(ウ) 「教科又は教職に関する科目」の単位数

「教科又は教職に関する科目」の単位数は、「教職に関する科目」の選択科目（P26 [表-3]の○印）および「教科に関する科目」の20単位を超えて取得した単位の合算となります。

(エ) 教職・教科に関する科目以外の必要科目の単位数（教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目）

次の[表-5]の4科目（計8単位）は全ての教員免許状取得（「工業」臨時措置の場合を含む）に必要となります。システム理工学部では総合科目、学部共通科目でこれらの科目を開講しているので、免許状取得希望者は必ず履修して単位取得してください。

〔表－５〕 全ての教員免許状取得に必要な科目の単位数

施行規則の科目	システム理工学部開講科目	必要単位
日本国憲法	総合科目「日本国憲法」を取得すること	2
外国語コミュニケーション	総合科目の中の指定された科目（教職欄：外国語）の中から1科目（2単位）を取得すること	2
体育	総合科目の指定された科目（教職欄：体育）の中から任意に2単位を取得すること	2
情報機器の操作	共通科目「情報処理演習Ⅰ」「情報処理演習Ⅱ」を取得すること	2
合計単位		8

〔表－６〕 教員免許状取得までの流れ

1年次		2年次		3年次			4年次				
4月	9月	4月	12月	4月	6月/11月	2月	4月	7月/12月	10月	11月	3月
新入生教職課程ガイダンス	教職課程受講登録手続きガイダンス	2年生教職課程ガイダンス	介護等体験ガイダンス ※中学校免許状希望者	教育実習・介護等体験ガイダンス	介護等体験直前ガイダンス	教育実習事前指導 ※春期集中講義 介護等体験実施 ※7日間	教育実習直前ガイダンス	教育実習事後指導	教員免許状一括申請ガイダンス	教員免許状一括申請申込	教員免許状交付式
								教育実習 ※2～4週間			教職実践演習

(5) 教職課程ガイダンス [1年次対象]

教職課程の受講を希望する者は、年度始めに開かれる「教職課程ガイダンス」において、科目の選択の仕方、取得すべき単位数、受講手続き等について説明されるので、必ず出席してください。

(6) 介護等体験 [3年次対象]

中学校教諭免許状取得を希望する者は、**特別支援学校（盲・聾・養護学校）**や**社会福祉施設**等で「介護等の体験」（7日以上）が必要です。介護等体験を行うための手続き方法などについては、年度始めに開かれるガイダンスで説明します。なおこの体験は、教職課程の単位となる科目ではありません。

(7) 教育実習 [最終年次対象]

教職に関する科目の「教育実習」は、3年次後期に行われる「事前指導」（学内実習）と4年次前期に協力校で実施される「学外実習」、さらに「学外実習」終了後に行う「事後指導」とからなりま

す。3年次後期に、「事前・事後指導」また、4年次前期に「教育実習1」（中学校免許希望者は「教育実習2」も併せて）を履修登録をしてください。「学外実習」には教壇実習が含まれます。

実習は、原則として各自の出身校（中学校ないし高等学校）で行うものとしますが、取得を希望する免許状・教科によっては出身校以外で行う必要があります。

教育実習を受講する場合は、3年次当初に行われるガイダンスに出席し、その指示にしたがって各自が出身校等に出向いて実習の内諾を得なければなりません。

また、受講資格として教育実習事前指導受講時（3年次後期末時点）までに①教職に関する科目（単位数についてはP26の〔表-3〕）、②教科に関する科目の最低必要単位（単位数についてはP27の〔表-4〕）、③教科又は教職に関する科目の必要単位（単位数についてはP25の〔表-2〕）、④教職・教科に関する科目以外の必要科目（単位数についてはP28の〔表-5〕）のうち、未修得科目が教育実習と教職実践演習を除いた2科目以下であり、さらに、当該年度に卒業の見込みのある者に限られます。

#### (8) 教員免許状一括申請ガイダンス〔最終年次対象〕

免許状取得に必要な全ての科目が取得見込みで、かつ卒業見込みの最終学年次生に対して、毎年10月上旬（予定）に免許状一括申請の手続き要領についてのガイダンスが行われます。

一括申請は、通常は免許状希望者が都道府県教育委員会へ直接行う免許状申請手続きを、在籍大学を通じて行うものです。申請希望者は提示された期限を必ず厳守してください。

なお、書類不備や期限外のものについては受け付けられないので、一括申請できなかった方は卒業後に各都道府県の教育委員会（原則、各人が居住する都道府県）に個人申請をしてください。

#### (9) 教職課程受講等に関する費用

ア. 在學生は、通常の授業に対する学費のほかに、教職課程の受講料として10,000円を、初めて教職課程を受講する学期の履修登録手続きの際に納入しなければなりません。（1度納入すれば次学期以降は納入不要）

イ. 本学の卒業生で在学中に所定単位を取得できなかった者が、卒業後に不足単位を取得しようとする場合は、新たに科目等履修生としての出願手続きと履修料等を納入してください。

なお、科目等履修生になるための詳細については、学生課へ問い合わせてください。

ウ. 介護等体験には、体験費用として、7,000円～10,000円（体験先の都道府県により異なる）が必要となります。

エ. 教育実習の受講時には、ア.の受講料の他に実習費用等として15,000円（年度によって変更あり）が必要となる場合があります。

オ. 教員免許状の授与に係る手数料は、免許状1件（1枚）につき3,300円（東京都・埼玉県の場合、2015年度）です。免許状の申請時に必要となります。なお、手数料は改定されることがあります。











## 6-1. 環境教育科目

### 大宮キャンパス環境方針の概要と 環境実践科目、環境教育科目、環境関連科目について

今日、環境問題は、身近なゴミや騒音の問題をはじめとして、地球規模での大気・海洋・土壌汚染、温暖化現象や酸性雨等による森林・生態系破壊、資源の枯渇化問題など、地球上の全ての生きものに対してその生存を脅かす事態に広がってきています。私たちには、これらのことを十分かつ正しく認識し、他の生きものと調和・共存し次世代にツケを回さない持続可能な社会を実現するために、環境に配慮した行動を実行することが求められています。

芝浦工業大学では、このような状況を真剣に受け止め、2001年3月、大宮キャンパスにおいて“ISO14001”の認証を取得し、以来約15年間この規格に基づき環境マネジメントシステムを運用してきました。こうした実績を踏まえ2016年度からは、環境マネジメントを内制化し大学自らが環境目標を掲げ、環境改善に対する活動を実施することとしました。

本学では、「**グリーンキャンパスを目指して**」というスローガンを掲げ、環境保全・改善のための活動を関係構成員が一体となって展開し、環境汚染（マイナスの環境側面）防止に努め、大学本来の社会的使命である以下に示すようなプラスの環境側面の積極的増加に努めることを宣言しました。

これにより、教育・研究を念頭においた本学の環境方針（目標）を示し、環境保全活動を展開する中で、環境教育カリキュラムの充実、環境を配慮またはそれに寄与するための研究活動の推進、学生の自主的環境活動の支援、および高い環境意識を持った学生を社会に輩出するための活動を行います。

カリキュラムについては、環境に関する科目の充実を目標とし、「**環境教育科目**」「**環境関連科目**」および「**環境実践科目**」を設定しシラバスにその標記を付すことにしました。これらの科目の定義は、以下のとおりです。

- 1. 環境実践科目**：環境教育割合が100%であり、かつ環境に関連した“ものづくり”“まちづくり”や社会貢献を実践するために必要な知識やスキルの習得を目的とする科目。もしくはこれらの実践そのものを目的としており、学生が大学キャンパス内外において、電気・ガスなどのエネルギー消費や資源の消費、ゴミの排出等の環境負荷の抑制行動の実践を促進する科目。
- 2. 環境教育科目**：環境教育割合が30%以上99%以下であり、かつ授業の全般にわたって、環境への有益面あるいは環境負荷など環境を主題としており、内容として、リサイクル、省エネルギー、資源、自然との共生などを扱った科目。ただし、心理環境、都市工学、住宅設計などで、景観、都市などの周辺を扱い、生物などに係わる直接の影響をもたらさない主題を扱った科目は除く。
- 3. 環境関連科目**：環境教育割合が1%以上30%未満であり、かつ授業計画の一部に、環境への有益面あるいは環境負荷についての記述を有している科目。心理環境、都市工学、住宅設計などで、景観、都市などの周辺を扱い、生物などに係わる直接の影響をもたらさない主題を扱った科目も含む。

## 地域志向科目

### 文部科学省 地（知）の拠点整備事業と地域志向科目について

本学は、2013年度（平成25年度）文部科学省「地（知）の拠点整備事業」『「まちづくり」「ものづくり」を通じた人材育成推進事業』について、採択されました（申請数319件中採択数52件（私立大学では、180件中15件））。

国が設定する本事業の背景には、急激な少子高齢化、地域コミュニティの衰退、グローバル化によるボーダーレス化、新興国の台頭による国際競争の激化など、我が国が置かれている困難な状況に対し、全国の様々な地域発の特色ある取組を進化・発展させ、地域発の社会イノベーションや産業イノベーションを創出していくことが急務とされている、ということがあります。その中で、大学は、社会の変革を担う人材の育成などを重大な責務としており、目指すべき大学像として、学生がしっかり学び自らの人生と社会の未来を主体的に切り開く能力を培う大学、地域再生の核となる大学、社会の知的基盤としての役割を果たす大学などが挙げられています。

本学においては、建学の精神として「社会に学び社会に貢献する技術者の育成」を掲げ、全学を挙げて教育・研究・社会貢献活動に邁進しているところであります。本事業の目的とするところは、本学の建学の精神と大きく符合し、「地域とともに生き、地域とともに学生を育む実践教育の場」として本事業をとらえ、応募・採択となりました。

具体的には、教育カリキュラムにおいて、地域の課題を取り上げ、課題解決をする科目を「地域志向科目」として設定し、多くの学生が地域の事例を通して実践的技術者たる実力を培う場を設けていくことといたします。「地域志向科目」の定義は以下の通りです。

#### 1. 地域志向授業科目

主として、教室等の座学の授業で、地域の事例・課題等を取り上げたものをいいます。

#### 2. 地域連携PBL

主として、フィールドワーク等の演習活動において、履修生のプロジェクトグループを複数作って、地域の事例・課題等についてプロジェクト検討させたものをいいます。

#### 3. 地域志向卒論・修論・博論

テーマにおいて、地域の事例・課題を取り上げた研究論文をいいます。

以上

## アクティブ・ラーニング科目

### アクティブ・ラーニング科目 A, B, C について

今日、大学での教育は「何を教えたか」から「何を学んだか」へと、大学教育の主体や成果に関する指標が大きく変化してきています。これは、従来の知識習得型授業だけではなく、その習得した知識を活用する能力の育成も大学教育に求められていることを意味します。以下は、平成25年5月に教育再生実行会議から出された提言の一部です。

社会において求められる人材が高度化・多様化する中、大学は、教育内容を充実し、学生が徹底して学ぶことのできる環境を整備する必要があります。(中略) 大学は、課題発見・探求能力、実行力といった「社会人基礎力」や「基礎的・汎用的能力」などの社会人として必要な能力を有する人材を育成するため、学生の能動的な活動を取り入れた授業や学習法（アクティブラーニング）、双方向の授業展開など教育方法の質的転換を図る。また、授業の事前準備や事後展開を含めた学生の学修時間の確保・増加、学修成果の可視化、教育課程の体系化、組織的教育の確立など全学的教学マネジメントの改善を図るとともに、厳格な成績評価を行う。国は、こうした取組を行う大学を重点的に支援し、積極的な情報公開を促す。企業、国は、学生の多彩な学修や経験も評価する。

芝浦工業大学は、平成26年度に文部科学省「大学教育再生加速プログラム (AP)」に採択されました。今回採択されたプログラムでは、建学の精神「社会に学び社会に貢献する技術者の育成」の下に、「総合的問題解決能力を備えた世界（社会）に貢献できる技術者」の育成を教育目標として定め、学生の主体的な学びを促し、学修成果の可視化に取り組んでいます。

本学では実験、実習、演習、PBL (Project/Problem-Based Learning|課題解決型学修) を通して学生が意欲的に学修に取り組める環境整備を進めており、このようなアクティブ・ラーニングを、全学部で4年間の体系的かつ組織的な教育プログラムとして構築します。また、講義科目へのアクティブ・ラーニングの導入により学生の意欲を高めるため、学修マネジメントシステム (LMS) と連携した、双方向システムの導入整備を進めます。

そこで、アクティブ・ラーニングの更なる導入・進展を図るために、2015年度から「アクティブ・ラーニング科目 A, B, C」を設定し、シラバスにその標記を付すことにしました。これらの科目の定義は以下のとおりです。

**アクティブ・ラーニング科目 A** : 学修者の能動的な学修への参加による授業が大部分の科目

**アクティブ・ラーニング科目 B** : 学修者の能動的な学修への参加による授業が概ね半数を超える科目

**アクティブ・ラーニング科目 C** : 各科目の中で1コマ分以上、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた授業を行う科目

## 社会的・職業的自立力育成科目

### 本学におけるキャリア教育と 社会的・職業的自立力を育成する科目について

皆さんは大学卒業後、あるいは大学院修了後、いずれは社会に出て、さまざまな役割を担いながら生きていくことになります。したがって、大学での学修は社会で活躍するための準備だといえることができます。社会に出た後の人生にも多くの分岐点があり、そのたびに大きな選択を迫られることになります。そのときに、賢い選択をするためには、生涯学び続けることが必要です。生涯学び続ける姿勢とその方法を身につけるのも、大学での学修の大切な目的のひとつです。

社会で活躍できる力、そして生涯学び続ける力、これらを養うために、専門科目では、それぞれの専門分野の視点から系統的なカリキュラムが組まれています。また共通教養科目では、世界や社会の枠組みという別の視点から幅広く学ぶカリキュラムが組まれています。しかし、皆一人ひとり、やりたいことや夢見ている将来の姿が違うので、それを実現するための道筋も一人ひとり違うはずです。したがって、折々に、自分の将来を見据えて学修過程を振り返り、学修計画を立て直すことも大切です。これが**キャリアの視点**での学修の進め方です。

このようなキャリアの視点での学修を助けるために、各授業科目のシラバスには、社会で活躍するために必要な力の育成について、担当教員がどのように意識しているかが表示されています。キャリアの視点で捉えた社会で活躍するために必要な力は、**社会的・職業的自立力**と名付けられており、表1のように4つの力で構成されています。この4つの力は、皆さんが定期的に、あるいは必要に応じて受検するPROGテストで測る基礎力にも対応しています。シラバスでは、この4つの力のそれぞれについて、育成を意識しているかどうかが表示されています。キャリアの視点での学修の振り返りや学修計画の作成に際して、この社会的・職業的自立力育成に関する情報を参考にしてください。

表1. 社会的・職業的自立力を構成する4つの力

社会的・職業的自立力	定義	PROGで測る力	定義	
知識活用力	知識を活用して課題を解決する力	リテラシー	情報収集力	課題発見・解決に向けて、幅広い観点から適切な情報源を見定め、適切な手段を用いて情報を収集・調査し、それらを適切に整理・保存する力
			情報分析力	事実・情報を思い込みや臆測でなく客観的かつ多角的に整理・分析し、それらを統合して隠れた構造をとらえて本質を見極める力
			課題発見力	さまざまな角度、広い視野から現象や事実をとらえ、その背後に隠れているメカニズムや原因について考察し、解決すべき課題を発見する力
			構想力	さまざまな条件・制約を考慮しながら問題解決までのプロセスを構想し、その過程で想定されるリスクや対処法を構想する力
対人基礎力	他人からの信頼を築き、チームを動かす力	コンピテンシー	親和力	多様な考えを受け入れ、相手の立場に立って考えることで信頼を引き出し、人間関係を構築していく力。また、自分から積極的に人間関係を築いていく力
			協働力	周囲と情報を共有し、周りのやる気を引き出して協力して課題に取り組み、また、リーダー的立場からメンバーを指導し、チームや後輩の意欲を高めていく力
			統率力	異なる意見にも耳を傾ける一方で、自分の意見も主張しながら、交渉や討議を建設的に進めていく力
對自己基礎力	自分の感情をコントロールし、主体的に行動する力	コンピテンシー	感情抑制力	ストレスのかかる場面でも自分の気持ちや感情を把握した上で状況を前向きに捉え、困難に挑戦していく力
			自信創出力	自分の強みや弱みといった自身の特徴を理解し、自分に自信を持っていると同時に、機会を捉えて自分を向上させようとする力
			行動持続力	自分なりのルールや決まりを作りながら、最後まで粘り強く責任を持って物事に取り組む力。自分にとって必要だと思う事柄に継続して取り組んでいく力
対課題基礎力	課題解決に向けて、計画し行動する力	コンピテンシー	課題発見力	さまざまな角度から適切な情報源と手段で情報を収集し、広い視野から現象や事実をとらえ、そのメカニズムや原因について考察して、解決すべき課題を発見する力
			計画立案力	さまざまな条件・制約を考慮しながら問題解決までのプロセスを構想し、その過程で想定されるリスクや対処法を構想する力
			実践力	目標達成に向けて自ら行動し、予測した先行きに合わせて全体の動きを調整しながら、早めに行動を修正し、実行する力

昨今の変化の激しい世の中を生き抜くためには、専門分野の知識や技能だけでなく、「前に踏み出す力（主体的に学ぶ力、実行力、など）」、「考え抜く力（課題発見・解決力、など）」、「多様な人々と協働して働く力（チームワーク力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力、など）」などの「社会人基礎力・汎用的能力」を鍛える必要があります。これらの能力は、近年では企業が人材を採用するにあたり重視する傾向にあります。

本学のプログラムにある『アクティブ・ラーニング科目』およびキャリア教育の『社会的・職業的自立力育成科目』を履修していくことで、社会を生き抜き、社会に貢献する人材となるのに必要な、社会人基礎力や基礎的・汎用的能力を身につけることができます。

例えば、下図は、これらの科目を履修することで、社会人基礎力・汎用的能力が向上することを示しています。学生の皆さんは、学科のカリキュラムマップを参考にして、知識や技能だけでなく社会人基礎力も鍛えるように、履修計画を立ててください。

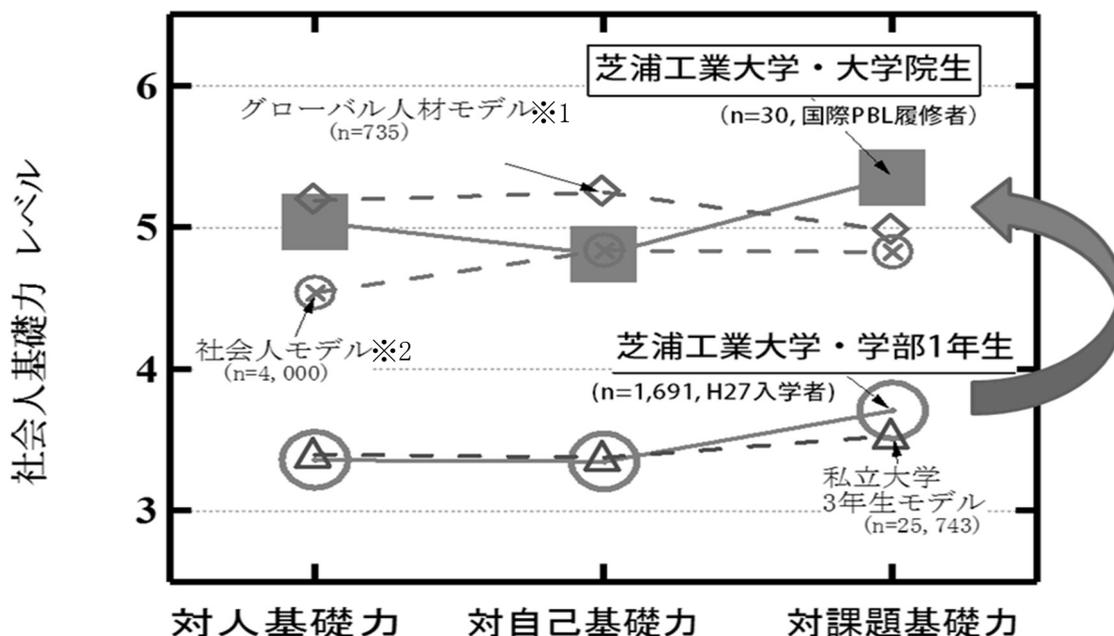


図 『アクティブ・ラーニング科目』およびキャリア教育の『社会的・職業的自立力育成科目』を履修した学生の社会人基礎力の向上例

※1 グローバル人材モデル：25歳～49歳の日本人ビジネスパーソン、アジアにおいて、外国人のマネジメント経験が2年以上あり、そのマネジメントに満足している者

※2 社会人モデル：20代後半から30代前半にかけて課長、もしくはチームをマネジメントしている若手ビジネスパーソン

## 6-2. 英語科目

システム理工学部 語学部会

### 教育目標

企業の海外での活動の比重は高くなる一方であり、国内の会社においても外国人社員の割合は増えています。さらに、社内の公用語が英語となっている会社もあります。このようにグローバル化が進む中を、システム理工学部で受けた専門教育を武器にして活躍できるように、実践的な英語力を学生が身につけることを教育目標として、英語科目のカリキュラムは組まれています。

理工学分野での実践的な英語力とは、理由や根拠にもとづく説明や発表ができる論理的な英語力です。また、現場での具体的なものや作業を正確かつ簡潔に表現できる英語力です。これらは曖昧さや解釈の余地を排除している分、表現方法が限られているとも言えます。学部での英語教育では、社会に出てからもさまざまな場面に応じた表現力に磨きをかけることができるような土台となる英語力を養います。

### カリキュラム全体像

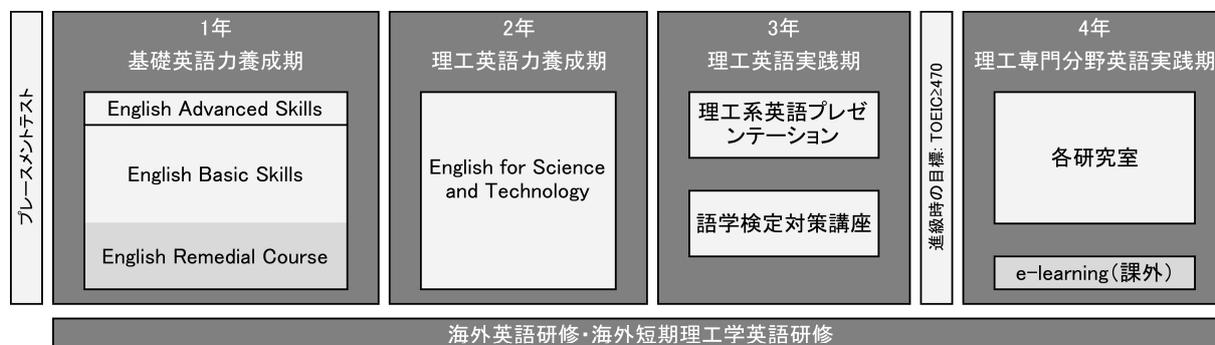
カリキュラムは、1年次は「基礎英語力養成期」、2年次は「理工英語力養成期」、3年次は、「理工英語実践期」、4年次は、「理工専門分野英語実践期」として、基礎から応用、そして一般英語から理工学英語へと進むようにデザインされています（下図）。

1年次の English Basic Skills (English Advanced Skills)の講義では、アカデミックな場面における客観的・批判的な議論ができる基礎的な能力を養います。特に、「読む」、「聞く」の比重を高くし、英語表現の蓄えを充実させ、英語を聞き取る能力を向上させます。

2年次の English for Science and Technology の講義では、理工系分野での場面に必要な英語表現を身につけます。特に、「書く」、「話す」の比重を高くし、自分の考えを伝える能力を養います。

3年次の「理工系英語プレゼンテーション」では、英語で口頭発表をし、文章を書く能力を高めます。「語学検定対策講座」では、社会で英語力の指標となっている検定試験で高得点を得る実際的なトレーニングを行います。

4年次は、研究室で各専門分野の英語を習得します。



## 海外英語研修・海外短期理工学英語研修

大学が行う短期の海外語学研修プログラムにより、英語だけの環境で集中的に英語の学習をするのも英語力の向上に効果的であり、積極的な参加を推奨します。事前・事後プログラムと併せて参加することにより、「海外英語研修」または「海外短期理工学英語研修」の単位として認定します。現在、University of California, Irvine、University of California, Davis、University of Guam、University of Queensland（以上 海外英語研修）、King Mongkut's University of Technology Thonburi、Universiti Teknologi Malaysia、Anna University, Chennai（以上 海外短期理工学英語研修）の語学研修プログラムが対象となっていますが、さらに単位認定をするプログラムが増えた場合は、掲示等で周知します。

## 実力テスト

入学時と各学期末には TOEIC テストを行います。学年途中にも TOEIC テストが行われることがあります。これらの TOEIC のスコアは、1年と2年の英語授業のクラス分けと、4年への進級時に目標スコアが達成されているかの判定に使用されます（次の項目参照）。

## レベル別クラス編成と4年への進級

1年次には通常レベルの English Basic Skills と上級レベルの English Advanced Skills が、同時帯に開講されます。英語力が高い学生（TOEIC の得点が450点以上）は、English Advanced Skills の講義を履修して下さい。英語力を苦手とする学生（TOEIC の得点が280点以下）は、基礎英語力強化のための English Remedial Course を併せて履修することが、English Basic Skills を履修するための要件となっています。English Remedial Course は区分は自由科目ですが、この単位を取得しないと English Basic Skills の単位も認められないので注意してください。English Basic Skills の履修が必須でない学生も、基礎英語力強化のために English Remedial Course を履修することが可能です。

2年次の English for Science and Technology の講義は、2年次新学期開始時までの TOEIC テストの中の最も高い得点を用いてクラス分けを行います。

1年次のレベル別クラスの上級のクラスでの成績は、レベルに応じた加点を行います。

4年次への進級時には、それまでに受けた TOEIC の得点で少なくとも1回は470点を超えていることを目標とします。超えていない学生に対しては、4年次前期には e-learning による課外補習を行います。

## 履修単位数

英語科目は8単位の履修が卒業要件となっていますが、将来を見据えた英語力向上のために8単位以上、英語科目を履修することも可能です。ただしこの場合は8単位を超える単位数は卒業要件単位数として加算されないので注意してください。

## 7. 学籍

### (1) 学籍とは

本学の実施する選考に合格し、所定の手続きを行って学生証の交付を受けた者は、本学に籍を置いて学修・研究活動ができる身分、『学籍』を有します。

『在籍』とは本学の学籍を有していることであり、『在学』とは本学の学籍を有し、当学期において学修していること（休学していない）をいいます。

学生は芝浦工業大学の学生であることの自覚と誇りを持って行動してください。

項目	内容
修業年限	本学の教育課程を修了するために必要な期間は『4年』です。 ただし、休学・停学期間は修業年限に算入しません。
在籍期間	本学に在籍することができる期間は『8年』です。
卒業	卒業とは本学の教育課程を修了して学生としての身分を終了することです。但し、在籍学科所定の卒業に必要な科目の単位を取得しなければなりません。 電子情報システム学科、機械制御システム学科、環境システム学科の卒業生には『学士（工学）』、生命科学科の卒業生には『学士（生命科学）』、数理科学科の卒業生には『学士（数理科学）』の学位が授与されます。

### (2) 学籍の異動

以下のような事項に該当した場合には諸手続きが必要となります。

項目	内容
留年とは	① 単位の取得状況が良くない場合 留年する場合は『留年願』が必要です。 在籍学科の学年クラス担任もしくは在籍学科主任と面談の上、3月上旬までに願い出を提出してください。願い出がない限り留年とはなりません。 ② 3年次終了時で4年次への進級条件を満たさない場合は自動的に留年となります。願い出は不要です。 ③ 4年次の年度末までに卒業要件を満たせなかった場合 『卒業停止』となり自動的に留年となります。願い出は不要です。
休学	休学とは 傷病その他やむを得ない理由で一定期間（2ヶ月以上）修学しないことをいいます。 休学する場合は以下の要件のもと、『休学願』を提出してください。 ① 在籍学科の学年クラス担任もしくは在籍学科主任と面談してください。 ② 休学を希望する学期の直前の学期までの学費を全て納めていることが必要です。 ③ 傷病による場合は医師の診断書を提出してください。
	休学期間 休学は1ヶ年以内を原則とします。 休学期間は、前期・後期、または、通年に区分します。 通年休学 4月1日～翌年3月31日 前期休学 4月1日～同年9月30日 後期休学 10月1日～翌年3月31日
	願い出 通年・前期休学は前年度3月上旬、後期休学は9月上旬までに願い出てください。
	修業年限 休学期間は在籍可能期間の上限8年間に算入しますが、修業年限の下限4年間には算入しません。
	単位認定 休学期間中に開講されている科目は履修登録ならびに単位取得はできません。後期休学者が通年科目を履修登録している場合、当該科目の履修は無効となります。
	学費 休学する学期の授業料は免除されるので、所定の維持料のみを納入してください。また、休学期間中は諸会費の代理徴収は行いません。

復 学	復学とは	休学期間を満了し、在学状態に戻ることをいいます。
	願い出	休学者の休学期間満了前に保証人宛に『復学願』を送付しますので、前期より復学するものは前年度3月上旬、後期より復学する者は9月上旬までに提出してください。引き続き休学を希望する場合は改めて休学を願い出てください。
	学 費	所定の維持料と復学後に在籍する学年所定の授業料を納入してください。
退 学	退学とは	事情により退学を希望する場合 ① 在籍学科の学年クラス担任もしくは在籍学科主任と面談してください。 ② 学生証を願い出に添えて提出してください。 退学を命じられる場合（学則第70条に基づく） ① 入学誓約書に違反した者 ② 性行不良で学生の品位を乱し、改善の見込みがない者 ③ 学力劣等で成業の見込みがない者 ④ 正当な理由がなくて常に出席しない者 ⑤ 学校の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者
	願い出	退学を希望する場合は『退学願』を提出してください。 前期末での退学：9月上旬まで 後期末での退学：3月上旬まで 退学を命じられる場合はこの限りではありません。
	学 費	退学を希望する学期までの学費が納入済みでなければ退学は認められません。
除 籍	除籍とは	以下の者は除籍を命じられます。（学則第71条に基づく） ① 行方不明の届け出のあった者 ② 学費の納入を怠り、督促を受けても納入しない者 ③ 在籍年数8年を超えた者 ④ 休学期間満了となっても復学等の手続きをしない者
停 学	停学とは	以下の者は停学を命じられます。（学則第69条に基づく） ① 本学の学則にそむいた者 ② 試験の際に不正行為をした者 ③ 学生の本分に反する行為があった者 処分期間によっては卒業延期となります。
転 部 ・ 転 科	転部・ 転科とは	転部とは、在籍学部から他学部への移籍のことをいいます。転科とは、在籍学部内での学科間の移籍のことをいいます。システム理工学部内での転科資格者は、1年次から4年次いずれかに在籍している者とし、転部・転科希望者には、移籍希望学部学科の定める選考（筆記試験・面接等）が課されます。なお、学内いずれの学部学科とも、毎年度、転部・転科者を募集するとは限りませんので必ず確認してください。
	移籍先	移籍先における受入年次は、原則として2年次とします。
	学 費	移籍先学科の所属学部において受入年次所定の学費を納入することになります。
再 入 学	再入学	本学を退学、または除籍となった者が再入学を願い出た時は、残りの在籍可能期間において卒業の可能性がある者に限り、許可されることがあります。
	願い出	再入学を希望する前年度の12月中旬までに願い出てください。
	学 費	学費は、再入学する学年所定の学費を納入することになります。

## 8. 科目配当表・科目配置表

### カリキュラムマップ

次ページより参照

### 科目コード番号について

本学部の開講科目には、下記の分類にしたがって科目コードが付けられています。ここに掲載する科目の順序は、おおよそ開講年次ならびに科目番号順に掲載されています。

#### 1) 総合科目

30010300 ～ 30778000

#### 2) 共通科目

##### 〈基礎科目〉

〈電子情報システム学科〉 P1310800 ～ P1710100

〈機械制御システム学科〉 Q1310600 ～ Q1710200

〈環境システム学科〉 R1310400 ～ R1710300

〈生命科学科〉 N1310200 ～ N1710400

〈数理科学科〉 V1310000 ～ V1710500

##### 〈システム・情報科目〉

〈電子情報システム学科〉 P1010400 ～ P2860500

〈機械制御システム学科〉 Q1010200 ～ Q2860400

〈環境システム学科〉 R1010000 ～ R2860300

〈生命科学科〉 N2040400 ～ N2860200

〈数理科学科〉 V2040200 ～ V2860100

#### 3) 専門科目

〈電子情報システム学科〉 P0010500 ～ P2681000

〈機械制御システム学科〉 Q0010300 ～ Q2690600

〈環境システム学科〉 R0010100 ～ R1230800

〈生命科学科〉 N0010900 ～ N2680200

〈数理科学科〉 V0010700 ～ V0910800

#### 4) 教職科目

Z3012800 ～ Z3780000















【 総合科目配置 2016年度入学生用 】

区分	1 年 次		2 年 次		3 年 次		4 年 次	
	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期
年次	哲学 I (2)	哲学 II (2)	人間と環境 II (2)	経営行動科学 (2)	技術者と倫理 (2)			
	認知心理学 (2)	組織心理学 (2)	教育原論 (2)	サイバネティクス (2)	教育社会学 (2)			
総合科目	日本史 A (2)	日本史 B (2)	教育心理学 (2)					
	世界史 A (2)	世界史 B (2)	先端技術とビジネス (2)					
目	倫理学 (2)	国際デザイン史 (2)						
	情報社会と法 (2)	生命倫理概論 (2)						
	社会福祉論 (2)	日本国憲法 (2)						
	経済学 I (2)	科学技術史 (2)						
	ブレイン・ネーション論 (2)	経済学 II (2)						
	文章論 (2)	社会学概論 (2)						
	社会ニーズ調査概論 (2)	プレゼンテーション論 (2)						
	社会ニーズ調査技法 (2)	文章論 (2)						
	科学技術と社会 (2)	社会ニーズ分析 (2)						
	行政学 (2)	システムとは (2)						
	政治学 (2)	ローゼンバウム・イノベーション (2)						
	専攻工業実学通論 (2)	論理的問題解決法 (2)						
	教育の近現代史 (2)	人間と環境 I (2)						
		経営戦略論 (2)						
		マーケティング論 (2)						
		実務工業実学通論 (2)						
		生徒文化論 (2)						

注)  は必修科目、 は選択科目 ( ) 内の数字は単位数を示しています。

















































































